

野菜作りで特に注意しておられることを農産物品評会受賞者の方々に聞きました。皆さんそれぞれに自分のこだわりを持って栽培をされていました。

受賞された方が栽培で心がけているポイントの聞き取りや取りまとめをしましたので、今後の参考にしてください。

ダイコン

- 土づくりとして、ネオコンボや有機石灰、BMようりん、マルチサポート、ホウ砂を入れることが重要で、播種の1ヶ月以上前からよく耕して、土になじませることがポイントです。
- 圃場準備から播種までの期間が短いと、ダイコンの肌荒れや又根になりやすくなってきます。
- ホウ砂はダイコンやカブといった根菜類の肌をきれいにする効果があります。(ホウ砂は野菜専用化成肥料にも含まれています)
- ネオコンボなどの有機質肥料を使い、緩やかに肥料を効かすこともポイントです。
- 連作を避けたり、圃場の畝たては高畝にして排水対策を取ることが重要です。



ハクサイ

- 土づくりはネオコンボや鶏糞、有機石灰、野菜専用肥料の他に、畑のカルシウムを使用する。また、自家製肥料を作り、使用されていました。
- マルチ栽培を行うと、雨水の跳ね返りを原因とする軟腐病予防になります。(受賞者はシルバーマルチを使用)
- 定植後はトレボン乳剤とダコニール1000で防除。
- 追肥を2回することにより、大きな玉になる。この時、マルチを外して追肥を行うといった手間をかけられています。



ニンジン

- 基肥でネオコンボ、鶏糞。追肥は油粕を使用。
- 間引きを省略するため、あらかじめ1粒播きをしています。
- 近所の方と情報交換をすることで情報を得ています。



ショウガ

- 基肥にネオコンボと鶏糞を使用。農薬は未使用。
- 種イモを大きめ(100g)程度に切って定植。
- 乾燥防止のため、除草した時の草を土の上にかぶせることがポイントです。



丹波黒大豆

- こよみどおりの管理を当たり前であることを心がけ、連作障害対策として2～3年空ける工夫をされています。



これらのことを参考に、
来年の栽培に活用しましょう!!

裏面は果樹の剪定(キウイフルーツ・ブルーベリー)を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.272 平成25年12月16日発行

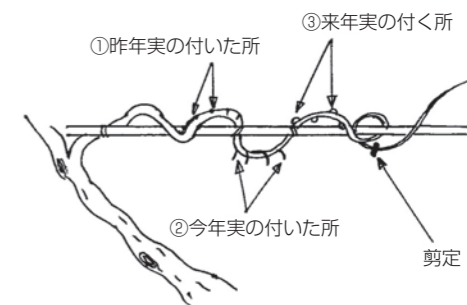
キウイフルーツ

剪定時期

12月上旬～2月上旬(なるべく1月中旬に剪定を済ませる。)

整枝剪定

キウイフルーツは、花や果実のつき方に特性があるのでよく理解して行わないと、翌年結実する部分まで、剪定で切り取ってしまう可能性があります。同じ枝で何年も収穫すると、結実する部分先端に移っていき、収穫量が減少します。間引き剪定と切り戻し剪定で枝を更新してください。



剪定ポイント

- キウイは、一度実が付いた場所からは発芽しないので、その場所(前回実が付いた枝)より先の芽(2～5芽)を残して切り戻す。
- 実が付いた部分の先が伸びていくので、2～3年経ったら枝は付け根から切り、新たな枝を伸ばしてその枝に結実させる(切り戻し剪定)。
- 実が付かなかった枝は、先端を少し切り詰めるか、5～8芽残して切る。
- 先端がつる状になっていれば、つる状の部分の切り戻し、枝が多く出ている場合は不要な枝を付け根から切り取る(間引き剪定)。

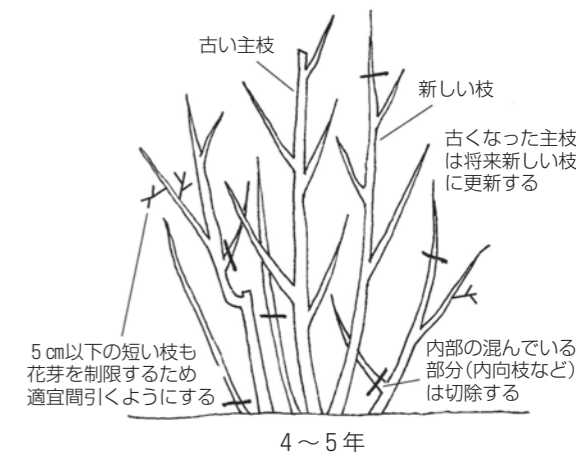
ブルーベリー

剪定時期

発芽直前の2月～3月
(暖冬期には発芽が早くなるので、やや早めに剪定する。)

整枝剪定

順調に生育すると株元から新しい枝が発生してくるので、古い枝や込み合っている部分を間引き、主軸枝を4～5本程度にする。主軸枝は、3～5年着果し続けると細くて弱い枝ばかり発生するようになるので、基部から間引いて新しい若い枝に更新する。大粒の果実を成らせるには、枝が込み合わないよう、生産性の低い枝を適宜更新していくことが大切。(右記イラスト参照)



剪定ポイント

- 主軸枝は、年次差を付けて順次更新する。
- 樹の高さ(主軸枝の切り替えし)は、収穫作業のし易さ(作業性)を考えて決める。
- 花芽(果実をつける芽 写真)は20cm以上の枝に残す。3～4個が目安。
- 弱い枝(長さ15cm以下)には、良い実がならないので間引くか、花芽の付いた部分を切り戻す(葉芽は残す)。
- 下枝、下垂枝、内向枝は間引く。
- 枝の伸びが弱い樹では、花芽数を極端に減らし、樹勢の回復を努める。



花芽

葉芽

※1月に果樹の剪定講習会を予定しています。

裏面は来年に向けて野菜づくり名人からのアドバイスを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.272 平成25年12月16日発行